



大野市教育委員会たより

令和元年11月12日発行 第36号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月7日（木）午後7時～8時50分 場所：阪谷小学校体育館
対象者：阪谷地区住民（出席者数8人）
次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎他の地区では、学校再編がどのくらいまで進んでいるのか。

⇒■現再編計画に基づいて、再編を進めている地区や学校は現在はない。（小中学校再編計画を策定した平成29年1月から、今年度の再編計画の見直しの取り組みまでの経過を説明）

⇒◎再編計画を見直すというのは、ゼロからのスタートではないということか。

⇒■教育委員会では、ある程度の規模の教育環境を作っていくために学校再編は必要であると考えている。学校の校数や再編時期、再編の方法を中心に見直しを進める。

⇒◎再編ありきで話をしていくということか。いずれは再編しないといけないと思っている。再編のやり方が重要だ。保護者の意見をどれだけ聞いてもらえるかが大切だと思う。

⇒■再編に向かって進みたいと思っている。そのために、意見交換会を開催し、多くの方から意見を聞いている。阪谷小をどうしたらいいかを聞きたい。

◎再編計画を見直した計画が議会で反対されたら、どうするのか。反対されたら、再編は全く進まないことになる。住民投票で決定するなどしたらどうか。

⇒■議会の承認を得られるように努力していきたい。再編計画は、議会の議決事項ではないが、進め方は議会に説明しながら策定していくこととなる。再編計画に関連する予算については、議会で議決していただくことになる。

◎中学校の音楽や美術、家庭などの専門教科の先生の人数は、どのように配置されるのか。

⇒■教職員は各学校の学級数によって人数が配置される。よって、学級数が多い学校では、専門教科の先生を配置すること出来る。

⇒◎働き方改革で、国の1学級の人数の基準に変更はないのか。

⇒■国が1学級40人を20人に基準を変更すれば、1学級を2学級にすることが出来て、教職員も1学年2人で授業を行える。このことは、教職員の要望であるが、国では別の点で働き方改革をして欲しいという方針を出している。

◎このような時代であり、再編は仕方がないと思う。今年、小浜市では小学校4校が1校に再編された。遠い地域の校区同士が再編されている。あわら市などでも再編を行っている。

⇒■小浜市でも再編を行うために、何年も時間をかけている。小浜市では再編でスクールバス6台の運行と路線バス1台を利用している。

⇒◎小浜市の再編と比べれば、大野の再編は距離が短い（範囲が狭い）と思う。

◎阪谷地区では以前、区長会で阪谷小の再編の話が行われ、その結果について新聞で報道された。その後、保護者から区長会に対して、事前の話し合いなしで再編を進めないで欲しいと言われたので、区長会で勝手に決める訳にはいかない。

⇒◎本心では、子どもが1人でもいる限り学校を続けて欲しい。しかし、子どものためを思うとそういう訳にはいかない。子どもが少ないと、しっかり先生から勉強を教えてもらえると思うが、スポーツは出来ないと思うので悩ましい所である。

⇒◎子どものことを考えれば、もう少し多い方が良い。中学校では大人数の方が部活が出来る。

⇒■尚徳中では、外部講師が教えている部活もある。野球部では、阪谷小の教頭先生に協力してもらい、教えてもらっている。部活をやっている以上、子どもたちにしっかりした技術を学んでもらいたいと思う。

⇒◎平日の部活は保護者が迎えにいけるが、土日の部活については、仕事がある保護者もいるのでスクールバスの送迎などをお願いしたい。

⇒■今は、働き方改革と併せて、子どもの体力にも配慮し、部活を平日は概ね月曜日を休みに、土日はどちらかを休みにしている。大会前の土日に練習した場合は、大会後の土日を休みにしたりしている。

◎平成29年1月に策定された再編計画の変更点は、この3つ（学校の校数、再編時期、再編方法）だけか。

⇒■3つを中心に見直しを行うこととしている。

⇒◎再編計画では、3つ以外のことについても方向性などが示されていたが、それらは見直しをしないということか。例えば、スクールバスなどのことについてである。見直した再編計画が策定された後、各地区でスクールバスのルートなどの細かいことについて決めていくための意見交換会や説明会などを開催するのか。

⇒■既存の学校を利用して再編する場合は、学校の場所が明確であるため、スクールバスの想定ルートなどは計画の中で示すことはできると思う。学校を新築する場合は、計画策定後に建設箇所の選定をするため、バスの想定ルートなどを示すことは出来ないと考える。今回見直す再編計画では、出来る限り具体的な内容を示していきたい。

⇒◎学校を新築するなら、この阪谷地区でも良い。この地域は環境も良い。

⇒◎既存の学校を使うかもと言っていたが、どの学校も古く、安心して教育ができるのか。

⇒■どの学校も30年、40年を経ているが、国では学校の長寿命化の方針も出している。施設のコンクリートがある程度強度が保たれていれば、補強工事を行うことで、施設の耐用年数を延ばすことが出来るとしている。

⇒◎乾側小以外は、耐震があるのか。

⇒■そうである。耐震基準を満たしている。

◎現再編計画に沿った場合、小学校は令和8年度に再編となっているが、それまでの間に例えば阪谷小が全校児童5人となり、令和8年度以前に富田小などへ先行して再編するということはあるのか。

⇒■それはある。保護者及び地区の方が、再編計画より早く再編すること（先行再編）を要望されれば、再編に向けて教育委員会も準備をしていく。

⇒◎阪谷地区の若い方には、子どもの教育を考え、地区を出て阪谷小以外の学校へ入学させる人もいる。

⇒◎30人ぐらいの小学校から、いきなり大きな中学校へ入学することに対する不安がある。中学生になる頃には、物心や分別もついている。成長過程に従って、徐々に学校の規模が大きくなっていくのであればいいのだが。小学校の時期は転校があっても対応できる年頃と思っている。

⇒■学校でフォローしていかなければならないと思っている。

⇒◎再編は早くして欲しい。中学校が1校になっても、市外に出れば他校と練習試合などが出来る。現在、校外の部活に所属している生徒もいるが、自分は校内の部活をするべきと思っている。

⇒■部活動は学校で大切な位置付けである。しかし、現在部活の数は減る一方で、生徒にはいろいろなニーズがある。そのため、校外のクラブで頑張ってもらえば良いと考えている。時代の流れで、校外のクラブへの移行が進んでいるが、学校から部活動がなくなることはないと思う。

⇒◎学校から部活動がなくなったらどうなるか。

⇒■生徒のニーズに対応できるだけの校外のクラブの受け皿がないと思う。クラブを教えている民間の方はボランティアで行っている。

◎再編については、1つ1つ順番に決めていった方が良い。

⇒■学校数や再編時期など、整理しながら進めていきたい。意見交換会でいろいろな場所を回っていると、保護者の一番の心配は通学で、学校までの距離と時間である。

⇒◎阪谷地区で冬の寒い時期に、小学生がスクールバスを1人で待っている姿を見ると可哀想である。保護者も仕事があるため、バスの停留所で子どもを降ろして会社へ向かってしまう。



◎校数のパターンが決まらなると、再編は前に進まないと思う。

⇒■再編の議論は段階を踏んで進めていきたいと思うが、あまり時間をかけ過ぎるのも良くないと思っている。

⇒◎再編に対して、周りの雰囲気はどうなのか。ほぼ再編に賛成ではないのか。

⇒■再編については、いろいろな意見がある。地区によっても違うが、保護者と年配の方でも違う。

⇒◎再編については、それなりに速度を速めた方が良い。間延びすると、現在の保護者がどうでも良いと感じてしまう。

◎この先、阪谷小が少なくなると先行して富田小と再編する可能性はあると言ったが、乾側小でも、先に下庄小へ再編するという話はなかったのか。

⇒■先行再編は、保護者や地区の方がしっかりまとまってもらわないといけない。教育委員会から再編計画より先行して再編することについては、保護者や地区に言うことは出来ない。乾側地区でも先行再編で一度まとまったが、その後、出来ないとの意思表示をされている。

⇒◎阪谷小についても、阪谷地区から先行再編の要望を出さない限り、教育委員会で先行再編を切り出さないということか。

⇒■そうである。

⇒◎阪谷地区の一部の保護者が、入学時から富田小へ行くことは絶対出来ないのか。

⇒■大きい学校へ行かせたいという理由で、指定された学校以外の学校へ入学することは出来ない。学校を変更する基準に合えば、希望する学校へ入学することが出来る。(指定学校の変更に関する基準は、広報おおの10月号に掲載)

◎学校が近くにあると、子どもの声が聞こえるので楽しみである。

⇒◎各世帯に子どもがいなくなっているから、学校再編に対して関心がない感じである。

⇒◎意見交換会では、どの開催場所も再編に対する意見が違うのか。

⇒■保育所や認定こども園の保護者からは、学校への入学前の子どもがいるため、学校の教育内容についての意見が多い。このような意見も再編計画を見直ししていく上で非常に参考となる。

⇒◎小学校は中学校区ぐらいの数で良いと思う。早急に再編の形を示して欲しい。それに対して意見をもらった方が良い。

◎市内の学校で、いじめはないのか。

⇒■いじめがないとは言えない。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本たよりは、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

